

令和6年度

タイ王国バンコク都との高校生交流事業

報告書



公益財団法人 福岡県国際交流センター



福岡県 企画・地域振興部国際局国際交流課

令和6年度

タイ王国バンコク都との高校生交流事業 報告書

目次

概要	2
グループメンバー	3
事前研修(1回目～3回目)	6
前半プログラム 於 バンコク都	9
後半プログラム 於 福岡県	12
参加者報告書	15
募集要項	21
募集チラシ	22

令和6年度 タイ王国バンコク都との高校生交流事業 概要

1 趣旨・目的

海外との交流に意欲的な高校生に、英語でのディスカッションや海外渡航の機会を与えることにより、国際感覚を持ち、将来的に英語でコミュニケーションができる人財を育成する。

2 概要

- (1)参加者 福岡県の高校生 10名
バンコク都の高校生 10名

(2)事業内容

福岡県とタイ王国バンコク都を相互に訪問し、ワンヘルスやSDGsをテーマに高校生に身近な社会課題について、チームごとに英語でグループディスカッションを行い、自分たちが取り組めることや課題解決策を発表する。

事前研修 1回目

令和6年11月17日(日)

福岡県とタイ王国バンコク都の概要、ワンヘルスやSDGsに関する講義とグループワーク

事前研修 2回目

令和6年11月30日(土)

バンコク都の高校生との顔合わせ(Zoom)、モデレーターによるSDGsの講義、チームごとの課題設定

事前研修 3回目

令和6年12月7日(土)

Zoomにて、チームごとに課題の原因追及、SDGsと課題の関連付け

前半プログラム 於 バンコク都

令和6年12月21日(土)～26日(木)

ワンヘルスやSDGsについての講義やフィールドワークを通じて英語でディスカッション、中間発表、バンコク都内・アユタヤ県視察

後半プログラム 於 福岡県

令和7年3月20日(木)～25日(火)

ディスカッションの成果を、各関係者・家族・教員ほか参加者へ発表、福岡県内視察

(3)参加資格

- ・高等学校もしくはそれに準ずる学校に在籍している18歳以下の者(福岡県内に在住もしくは福岡県内の高等学校等に在籍)
- ・ワンヘルスやSDGsに強い関心を持ち、協調性に富み、団体生活に適応でき、心身ともに健康でタイの文化や生活、国際交流に関心のある者
- ・一定の英文読解力を有し、英語によるコミュニケーションが可能であること など

(4)実施主体

福岡県企画・地域振興部国際局国際交流課

公益財団法人福岡県国際交流センター

※福岡県からの委託により、(公財)福岡県国際交流センターが実施

グループメンバー

グループA

メンバー

氏名	学校
池田 小春	宗像高等学校
藤村 彩世	筑紫丘高等学校
Pannakon Eaimsopa	Kaen Thong Uppatham School
Ranchida Arpapraiwan	Matthayomwatsuttharam School

ディスカッションテーマ

教師不足により、十分な教育を受けられていないタイの地域を取り上げ、この状況を改善するため、大学生やSNSを通じて教師の増員やPCの活用、政府や知事への活動要請など様々な観点から、子どもたちの未来の質の高い教育を目指す。

関連するSDGsの目標

- 1. 貧困をなくそう
- 4. 質の高い教育をみんなに
- 10. 人や国の不平等をなくそう
- 11. 住み続けられるまちづくりを

グループB

メンバー

氏名	学校
野田 菜々李	明善高等学校
中川 紗良	鞍手高等学校
Atitaya Kamlangram	Matthayomnaknawaupatham School
Pattaraporn Tanarunyou	Naluang School

ディスカッションテーマ

農業における過剰な化学肥料をテーマとし、福岡県直方市で過去に起こった土壌汚染などを例に出しながら、その原因を追究し、過剰な化学肥料を使用しない最適な肥料の模索や、地元のコミュニティの活用を行いながら人と自然の共存について考える。

関連するSDGsの目標

- 2. 飢餓をゼロに
- 3. すべての人に健康と福祉を
- 4. 質の高い教育をみんなに
- 6. 安全な水とトイレを世界中に
- 15. 緑の豊かさを守ろう

グループC

メンバー

氏名	学校
本田 百花	精華女子高等学校
梶原 悠加	福岡雙葉高等学校
Panphruek Absiram	Matthayompuranawas School
Chonthicha Sae-lee	Kaen Thong Uppatham School

ディスカッションテーマ

バンコク最大のスラム街といわれるクロントゥーイ区を取り上げ、現地の問題を追及し、子どもたちに十分な教育や将来の雇用機会を与えるため、その改善策について考える。

関連するSDGsの目標

1. 貧困をなくそう
4. 質の高い教育をみんなに
8. 働きがいも経済成長も

グループD

メンバー

氏名	学校
市丸 キラ	沖学園高等学校
栞原 光一郎	筑紫丘高等学校
Parichat Arjsatit	Matthayomprachaniwet School
Natthaniya Baisanthia	Matthayomprachaniwet School

ディスカッションテーマ

タイの高校にてフードロス削減コミットを立ち上げ、フードマネージャーや学生、教師を交え、さまざまな観点からフードロスに関する問題に対処する効果的な解決方法を考える。

関連するSDGsの目標

2. 飢餓をゼロに
12. つくる責任つかう責任
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

グループE

メンバー

氏名	学校
古川 美咲	久留米工業高等専門学校
岡 芭菜果	城南高等学校
Tipkitta Oungpiw	Matthayomsuwitserreeanusorn School
Boonyaporn Sumatluck	Matthayomprachaniwet School

ディスカッションテーマ

近年における食中毒や食品衛生に関する問題提起を行い、具体的な解決方法として、食品衛生についてのマニュアル作成などを挙げている。

関連するSDGsの目標

3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



事前研修 1回目（対面）

概要

令和6年11月17日（日） 於 アクロス福岡702会議室

バンコク都の高校生との交流に先立ち、福岡県での暮らしを振り返ると同時にタイ・バンコク都について学びながら、SDGsやワンヘルスの基本的な考え方を理解する。

- 1 主催者挨拶（武濤 研二郎 福岡県国際交流センター専務理事）
- 2 プログラム概要説明
- 3 自己紹介
- 4 講義① 福岡県政の概要・ワンヘルスについて
- 5 講義② タイ王国・バンコク都について
- 6 講義③ SDGsについて・アクティビティ「2030 SDGs」
- 7 事務連絡

講義名・講師

- | | | |
|-----------------------------|--------|------------------------|
| ■福岡県政の概要・ワンヘルスについて | 富山 継章 | 福岡県企画・地域振興部国際局国際交流課 主事 |
| ■タイ王国・バンコク都について | 富松 寛考 | タイ国政府観光庁 マーケティングマネージャー |
| ■SDGsについて・カードゲーム「2030 SDGs」 | 高木 正太郎 | 株式会社 ユーメイト純正 |



富山氏による福岡県政・ワンヘルスについての講義の様子



富松氏によるタイ王国についての講義の様子



高木氏によるSDGsについての講義の様子



SDGsカードを使ったグループワークの様子

事前研修 2回目（オンライン）

概要

令和6年11月30日(土) オンライン

福岡県とバンコク都の高校生が初めてオンラインで顔を合わせ、交流を図った。使用言語は英語。進行はモデレーターのタマサート大学SDGs研究支援センター副長のMs. Nuntinee Malanonが務め、SDGsに関する講義があった。その後、福岡県国際局国際交流課の富山主事より県政の概要とワンヘルスに関する講義が行われた。学生4名(福岡2名、バンコク2名)のチーム毎にタイのメンターが1名加わり、メンターの補助を受けながらディスカッションを行った。

- 1 オープニング(自己紹介)
- 2 SDGsに関する講義
- 3 県政の概要とワンヘルスに関する講義
- 4 グループディスカッション①〔共通する課題の発見〕

参加者

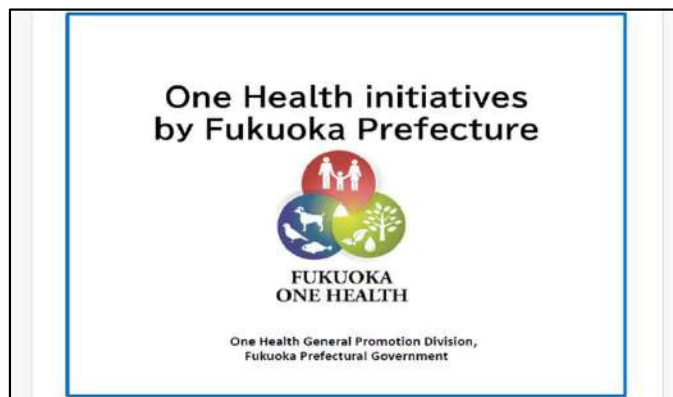
モデレーター	タマサート大学SDGs研究支援センター副長 Ms. Nuntinee Malanon
メンター	5名(各グループに一人)
福岡県高校生	10名
バンコク都高校生	10名
バンコク都教育局	1名
(公財)福岡県国際交流センター	3名
福岡県国際局国際交流課	2名



顔合わせ、自己紹介の様子(オンライン)



SDGsに関する講義の様子①(オンライン)



国際局によるワンヘルスに関する講義



SDGsに関する講義の様子②(オンライン)

事前研修 3回目（オンライン）

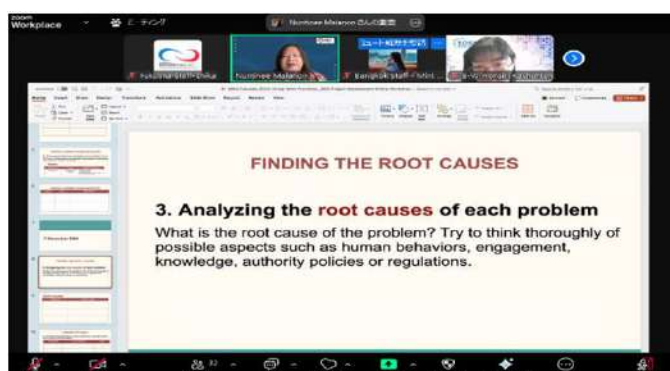
概要

令和6年12月7日(土) オンライン

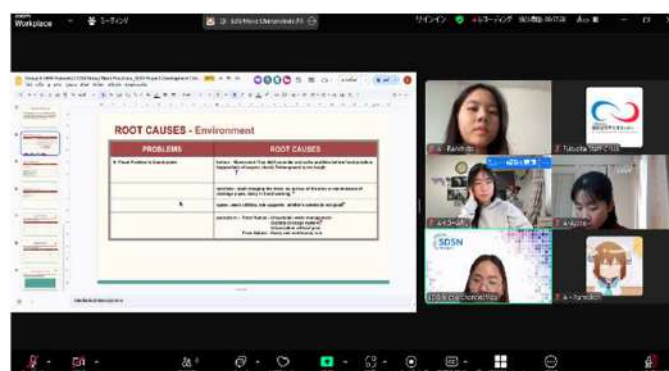
第2回事前研修の延長として、グループディスカッションを実施。進行と各グループのサポートは第2回事前研修と同じモデレーターとメンターが務め、使用言語は英語で進められた。前回の研修で各グループにて挙げた課題を基に、それぞれの課題がSDGsの17テーマにどのように関連するか話し合い、今後研究したいテーマを決定し発表を行った。

- 1 オープニング(前回の復習)
- 2 グループディスカッション②〔課題の原因追及〕
- 3 プレゼンテーション〔発表テーマ決定と共有〕

参加者 ※第2回事前研修と同様



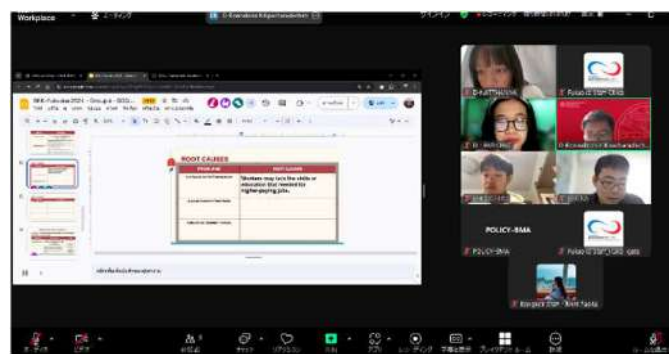
前回研修の振り返りの様子



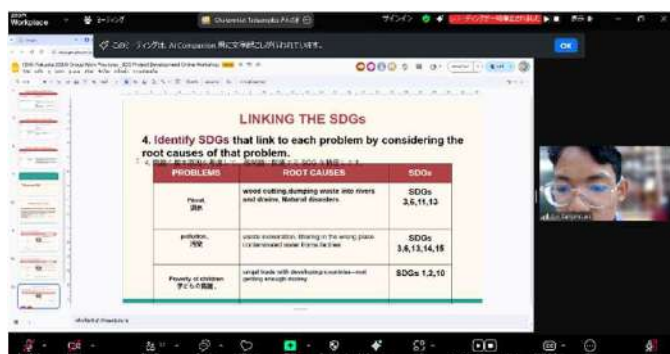
Google機能を使ったグループディスカッション例①



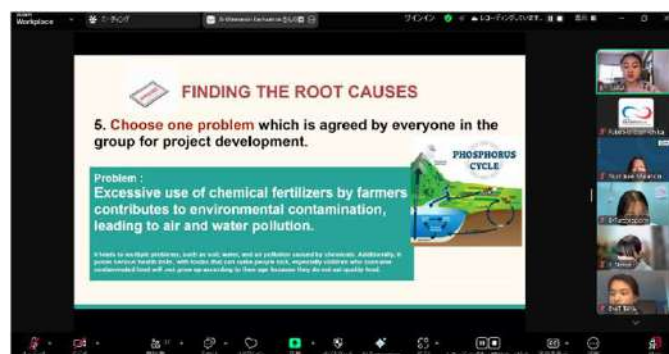
Google機能を使ったグループディスカッション例②



Google機能を使ったグループディスカッション例③



課題に関連するSDGsの特定



各グループによる課題発表

前半プログラム 於 タイ王国バンコク都

日程表(5泊7日)

日程		内容
12/21	土	出発式
		福岡空港国際線発
		福岡県訪問団バンコク到着
		ホテル到着(バンコクの学生によるお出迎え)
12/22	日	ホテル出発
		アユタヤ視察(ワット・マハタート、水上マーケット)
		オリエンテーション夕食会
12/23	月	ホテル出発
		バンコク都議会 表敬訪問
		バンコク都 表敬訪問
		夕食
12/24	火	グループディスカッション(午前)
		昼食
		グループディスカッション(午後)&発表準備
		クルージング
		夕食
12/25	水	グループディスカッション(午前)
		昼食
		中間発表会
		フェアウェルパーティー
12/26	木	ホテル出発
		暁の寺視察(ワット・アルン)
		昼食
		ショッピング
		空港へ移動
12/27	金	福岡県訪問団帰国
		福岡到着

前半プログラム 於 タイ王国バンコク都

概要

令和6年12月21日(土)～26日(木)

福岡の高校生がバンコク都を訪問し、バンコクの高校生と初めて対面による交流を行った。グループディスカッションでは、事前研修にて決定した各グループのテーマについて議論を進め、中間発表を行った。滞在期間中はバンコク都やアユタヤ県を視察し、タイの寺院や街並みなど歴史や文化に触れた。またバンコク都議会及びバンコク都庁表敬を通して議長や知事と貴重な時間を過ごすことができた。



福岡空港出発前



バンコク都生徒によるお出迎えの様子



チャオプラヤ川クルーズの様子



ゾウへの餌やり体験



ワット・マハタート



ワット・アルン



歓迎会の様子



ワット・アルン

前半プログラム 於 タイ王国バンコク都



発表の様子(グループA)



発表の様子(グループB)



発表の様子(グループC)



中間発表の様子(グループD)



中間発表の様子(グループE)



グループワークの様子



バンコク都議会表敬・都庁表敬



送別会(クリスマスパーティー)の様子

スワンナプーム空港

後半プログラム 於 福岡県

日程表(5泊6日)

日程		内 容
3/20	木	バンコク都訪問団到着(お出迎え)
		太宰府天満宮視察
		昼食
		歓迎会
3/21	金	ホテル出発
		福岡県 表敬訪問
		福岡県議会 表敬訪問
		昼食
		オープントップバス(福岡市内バスツアー)
		東長寺視察
		夕食
3/22	土	ホテル出発
		発表準備
		昼食
		成果発表会(福岡アジア美術館)
		日本文化体験(折鶴、けん玉、福笑い)
		夕食
3/23	日	ホテル出発
		タカミヤ環境ミュージアム視察
		昼食
		TOTOミュージアム視察
		小倉城庭園抹茶体験
		夕食
3/24	月	ホテル出発
		着物着付け体験(大濠公園まゆの館)
		昼食
		グループ毎に福岡市内視察
		送別会
3/25	火	ホテル出発
		バンコク訪問団帰国(お見送り)

後半プログラム 於 福岡県

概要

令和7年3月20日(木)～25日(火) 於 福岡県内(太宰府市、北九州市、福岡市ほか)

後半プログラムは、バンコク都訪問団を福岡に迎えた。SDGsに注力する北九州市の訪問や、福岡県の環境保護への取り組みを学び、太宰府天満宮や小倉城などの福岡名所を案内した。また、プログラムの集大成である成果発表会ではダンスや音楽などを取り入れた個性あふれるプレゼンテーションで会場を盛り上げた。



太宰府天満宮視察



TOTOミュージアム



タカミヤ環境ミュージアム



歓迎夕食会



県庁表敬訪問



県議会表敬訪問



福岡市内視察

後半プログラム 於 福岡県



Group A : バーン・チャーボー地域の子どもたちへの
充実した教育を提供するために



Group B : 農業における過剰な化学肥料への改善策



Group C : クローントゥーイ区の子どもたちの未来と教育



Group D : フードロス削減を目的としたコミットを結成



Group E : 食品衛生～食中毒を防ぐためにできること～





参加者 報告書



市丸 キラ

沖学園高等学校



【前半プログラム 報告書】

世界のリアルを知りたいと思い、参加したバンコク都との高校生交流事業。バンコクの生徒と過ごした一週間は、驚きと発見の多い非常に充実した時間でした。

トゥクトゥクが街を走り回り、通りの至る所で軒を並べ商売に精を出す屋台等、タイ特有のおっとりした優しい雰囲気は、喧騒に包まれ時間に厳しい日本のそれとは異なり、素敵だなと思いました。一方で、街中に平然と置かれているゴミを見ると、「夜に回収し、朝はゴミがない」状態を作り上げる福岡市のごみ収集のシステムは非常に優れており、世界に発信できればと思いました。

SDGsの話し合いも非常に有意義な時間でした。互いに持ち寄ったアイデアを共有しながら、解決策を見出していくとき、私はバンコクの生徒の発信力に圧倒されました。バンコクの生徒のSDGsに対する熱意は、私の漠然とした考えとは違い、もっと確立されたものでした。3月のバンコク訪問団の受入までに学びを深め、自分の考えを明確にできればと思います。また、福岡では最終発表もあります。その際、スライドに工夫を凝らし、みなさんに伝わりやすい話し方を研究するなど、より一層準備をして臨みたいと思います。

バンコク滞在の最終日にはサプライズが起こりました。なんと、年末に誕生日を迎える私のために、バンコクの生徒がケーキをもって空港に駆けつけてくれたのです。その温かい気持ちとケーキの味は一生の宝物です。

たくさんの思い出が生まれた一週間。3月に再会するときはほんのり美しいピンクの桜とともに、彼らが素晴らしい思い出を作れるよう、尽力したいと思います。

【後半プログラム 報告書】

再会の喜びと共に始まった福岡での活動は、濃く実りある一週間となりました。

まずは最終発表会です。バンコクでの中間発表後、発信力やスライドの構成を課題に挙げ、改善に取り組んできた成果があり、発表は大成功を収めました。これも一重に、課題解決に向けて、タイのチームメイトが、一生懸命サポートしてくれたおかげだと感じています。今後も教わったことを忘れずに、活かし続けていきたいです。

また成功に加えて発見もありました。他のチームの発表を聞いてみると、「こんな表現ができるのか。」「あんな風に説明するといった。」「といった、自分に足りないところを見つけ、考え直す貴重な機会になりました。

そして福岡県内の視察の際も、普段何気なく生活しているだけでは知らなかった歴史や、気づかなかった魅力に触れることができました。皆で歩いた福岡の街並みは普段の何倍も美しく、忘れられない思い出となりました。

世界のリアルを知りたいと思い、参加したバンコク都との高校生交流事業。たくさんの人に支えられ、刺激を受け、目にしてきた経験は、間違いなく今後の人生の糧になると感じています。

また、この事業での議論・交流が、将来よりよい世界を、未来を築く第一歩になったとも感じています。改めて、このような貴重な機会を下さった、全ての方々に、心より感謝申し上げます。

今後も、この研修で得たものを活かし、世界をつなぐ架け橋となるよう、邁進していきたいです。

池田 小春

宗像高等学校



【前半プログラム 報告書】

今回のバンコク都交流プログラムは多くの素敵な出会いと貴重な体験に満ちたものでした。事前研修でタイは微笑みの国と呼ばれるほど温厚で優しい人が多いと聞いていましたが、まさにその通りで思いやりあふれる方々に出会うことができました。一緒に活動したタイの学生たちはもちろん、歓迎パーティーでは去年のプログラム参加者の先輩方が最初の挨拶に緊張している私たちに輝く笑顔で接してくれて緊張をほぐしてくれました。同年代にも関わらず堂々としており自分をしっかり持っていてとてまことよく、私の憧れです。タイの伝統的な踊りや食事を楽しみ、その後みんなで踊る場面がありタイの朗らかな文化を肌で感じられ、タイのことがすぐに大好きになりました。

また、バンコク都知事の気さくなお人柄とタイの方との距離の近さに驚きました。私たちとの写真撮影でいろいろなポーズと一緒にしてくださったことがとても印象的です。三日目のバンコク都議会の表敬訪問では、バンコク都知事やバンコク都議会の方々が私たちを優しく迎え入れ質問にも丁寧に答えてくださりました。都議会では直接今のバンコクの課題、国際理解の重要性を聞くことができとても勉強になりました。

二日間行ったグループディスカッションで私たちのグループは「都市と地方の教育格差問題」について話し合いました。もう一つ教育問題をテーマにしているグループがあったのですが、問題へのアプローチが難しく最初のプレゼンテーションではどちらのグループも苦戦していました。しかし、先生のアドバイスやメンターさんのフォローを基にメンバーとたくさん意見を交換して、アイデアを出すことができました。最後のプレゼンテーションでは、寸劇もみんなで準備し、より私たちのアイデアを魅力的に伝えることができました。

そして中間発表のあとの大きな拍手と講評が嬉しかったです。この二日間でSDGsについてたくさん考え話し合う中で、教育と未来は直結しているんだなと感ずることができました。だからこそ、身近に感じにくいSDGsについて高校生のうちから学び他の方にも伝えていくという活動をしていく必要があると思いました。三月の研修でもたくさんタイの学生と交流し日本の魅力を伝えて、日本を大好きになってもらいたいと思います。

【後半プログラム 報告書】

福岡での研修を通して私たちが住んでいる福岡のこと、環境のことについて勉強したいと思いました。東長寺の大仏やオープントップバスなど福岡に住んでいながらも体験したことがないことばかりでタイの学生たちとともに私自身も福岡の魅力を再発見できました。特に、北九州のタカミヤ環境ミュージアムではなぜ北九州で工業が発達し、どのように日本の経済成長を支えたのか、それによって起こった問題など、今まで知らなかったことを多く学び、TOTOの工場見学では、いつも当たり前のように使っているトイレには様々な歴史や背景があって今のような形になっていること、環境に配慮し技術によって使う水の量を大幅に削減できたことを学びました。研修により私たち自身も学びを深めながら、タイの学生たちの質問にしっかりと答えることを心がけました。私たちがタイでそうだったように、見るもの全てが新鮮なタイの学生たちからは私が想像もしていなかった質問が飛んできました。日本人形についての質問からバスの質問まで内容が多岐に渡っており、こちらも考えて答えることが楽しかったです。

三日目の最終発表会では初めてステージで発表しました。来場者にも楽しんでもらえるよう自分たちなりにダンスやロールプレイングを加え、満足のいく発表ができました。英語によるSDGs研修を通して英語というのは目標ではなく目的だと強く感じ、英語から多くのことを学べるようにもっと英語力強化に力を入れていくというモチベーションにもなりました。タイと福岡での交流活動がこのように忘れられない大切な思い出となったのは関わってくださった全ての方々のおかげです。ありがとうございました。この経験を最大限に活かし、世界と日本の架け橋となる人になりたいと思います。

藤村 彩世

筑紫丘高等学校



【前半プログラム 報告書】

タイで過ごした7日間は、自他への気づきに溢れていました。

まず、SDGsの議論では、私たちの班はタイの地方の子どもたちに十分な教育を届けることを話し合いました。タイの学生が言うように、都会と地方の格差はタイの昔からの深刻な問題であるため、解決策を考えるのは本当に難しかったです。しかし、心を開いて思ったことを言ってみると、みんなのアイデアが繋がって、良い解決策を考えることができました。しかし、日本ではなぜほとんど格差がないのか尋ねられた時に、答えることができませんでした。このような議論や国際的な問題解決のためには自国のことを深く知る必要があると痛感しました。

次に、タイでは世界中の様々な国の人を見かけました。ホテルのバイキングではハラルフードが明確に表示されており、様々な文化を持つ人々に配慮がされていると感じました。日本にもこれらをもっと取り入れたいです。そして、日本の食事の文化「いただきます」「ごちそうさまでした」の良さについても改めて感じることができました。タイの学生が、「タイでは食事の前に挨拶をするけれど、食事の後には何もしない人もいます。だから日本のその文化は素敵だね。」と言ってくれました。食事をするときにはみんなそろってこの挨拶をしてくれ、日本の文化を受け入れてくれたことに温かい気持ちになりました。

私は実際にタイを訪れることでたくさんの「本物」を体験し、学ぶことができました。仏教文化やタイ料理など、どれも魅力がいっぱいで、タイが大好きになりました。最後に、3月にバンコクの皆さんをお迎えするときには、さらに日本や福岡の文化を伝える準備をして、より良い交流ができるようにしたいです。

【後半プログラム 報告書】

タイの皆さんの福岡への受け入れを通して、日本を外から見つめ直し、新たな発見や視点を得ることができました。

タイの学生みんなが「桜」という日本語を知っていたことや、学生の多くがアニメに興味を持っているということから、自分が想像している以上に日本文化は海外に広まっているのだと実感しました。

私は部活動で茶道を学んでおり、今回茶道体験の場でタイの学生にその魅力を伝えたり、お茶の点て方を教えたりする機会をいただきました。日本文化の素晴らしさを直接伝えられたことはとても嬉しく、私にとって忘れられない貴重な経験になりました。国際交流においては、相手の国の文化を学ぶだけでなく、自国の文化についても理解を深めておくということが大切であると改めて感じました。

また、SDGs成果発表を通して多くの学びを得ました。プレゼンテーションの準備で、タイの学生がダンスを取り入れた入場やポーズを交えた自己紹介など、日本人にはなかなか思いつかないユニークなアイデアを提案してくれました。実際にこの方法で登場すると会場の雰囲気や和らぎ、リラックスして発表することができました。発表は厳肅な雰囲気の中で行うものだと考えていましたが、自分の中での当たり前が変わった瞬間でした。

この一度きりの素晴らしい出会いと経験に、心から感謝しています。今回の経験を活かし、将来世界に貢献できる人財になれるよう努力していきます。

古川 美咲

久留米工業高等専門学校



【前半プログラム 報告書】

1週間の渡航でタイの人々の素敵な考え方に触れました。特に印象に残っているのは、「サバイバイ」というタイの言葉です。この言葉にはゆっくりするや心地よくという意味があるそうです。バスが遅れた時や時間が遅れている際に、タイの人たちはよく「サバイバイ」と言って、怒るでもなく気長に待っている様子を見ました。タイ語のゆったりとした響きも手伝ってこの言葉は耳によく残り、心の豊かさが表れていると感じました。

考えてみると、私は今までは時間が遅れていると焦る気持ちが強くマイナスな気持ちが生まれていました。ですが、タイの人たちを見てこの時間をゆっくりしているという別の視点で考え、その時間にさえ価値を見出していることに感動しました。そして、同じ時間であっても、捉え方次第ではとても素敵な時間になってくのだと新たな気づきがありました。

SDGsについてのディスカッションでは、タイの学生と同じテーマに沿って話し合いました。私たちのグループは食品衛生を大きなテーマとしてディスカッションを進めていました。その中でも、タイの高校における食品の不衛生さから起きる体調不良者を減らし、食中毒の対策についての知識を深めることを目標にしました。

タイの学生はプレゼンテーションも英語も得意で、自分の力不足を痛感しましたが、なんとか自分の考えていることや、日本での事例を共有することを意識しました。タイの学生とのディスカッションでは回を重ねるごとにより良いものになっていき、考え方が違うからこそ新しいアイデアが生まれたのだと思いました。そこで、次の3月の活動では様々な視点から考えながら具体的な解決策を探していきたいです。

【後半プログラム 報告書】

後半のプログラムでは、タイの学生を福岡に受入れ最終発表や日本文化体験などが行われました。12月の渡航とは違い、受け入れる側ということでおもてなしをする番でした。違う立場に立って改めて、バンコクの方々にとても温かく歓迎していただいたことに気付きました。私たちもタイの学生に喜んでほしい一心でソーラン節を踊ったり、日本文化や福岡についてのガイドを制作したりしました。滞在中にみんなが「ソーラン、ソーラン」と口ずさんでいたり、ガイド面白かったよと声をかけてくれたりと楽しんでもらえたようで、私自身もとても嬉しかったです。

福岡での活動の終わりにタイの友人から「最初は日本語なんて難しくて勉強したいと思わなかったけど、みんなといたから日本語に興味を持つことができた」という忘れられないほど嬉しい言葉を貰いました。私たちの使っている日本語を一生懸命に覚える姿に感動しました。

思い返してみると、タイに滞在していた時から日本語とタイ語の交流は盛んに行われていました。「ありがとう」や「おやすみ」など生活に根付いたものから、ダジャレが得意なメンバーが教えたダジャレなどです。私たちは共通言語として英語を使っていましたが、言葉が通じずともお互いの言語を教え合っていた時はとても幸せな時間でした。

このプログラムを通して、福岡、タイの学生どちらからも文化や言語が違う中でどんな姿勢で向き合ったらいいかを学ぶことができました。素敵な出会いと、学びの多くに感謝し、今後も成長を続けます。

栞原 光一郎

筑紫丘高等学校



【前半プログラム 報告書】

私は、この1週間で様々な面で成長できました。

まず、英語力の向上を感じました。私は今まで英語でコミュニケーションをとったことがほとんどなく、タイへの派遣を通して英語で会話することの楽しさを実感しました。一方で、英語が聞き取れない、自分の気持ちを英語で表現できないといったもどかしさを感じることも多く、3月の受け入れの際にはもっと会話を楽しめるように英語の勉強を頑張りたいと強く思いました。

また、SDGsについてのディスカッションを通してたくさんの困難を経験できました。食品ロス問題について議論を重ねる上で日本とタイでの文化の違いを感じ、中々議論が進まなかったり、英語で自分の気持ちを伝えられなかったり、相手が言っていることが上手に聞き取れず、自分以外で議論が進んでいるように感じたりと正直つらいと感じることが多かったです。

でも、同じグループの仲間のおかげで中間発表を乗り越えることができました。中間発表ではただグループの意見を伝えるだけでなく、見る人を楽しませるためにたくさん工夫を考え、楽しく発表できました。

そして何より国際交流の楽しさを学ぶことができました。このプログラムに参加する前は、タイのことは何も知らず、今後訪れることがあるとは思っていませんでした。

しかし事前研修でタイについての講義を受けることによって、タイの印象は大きく変わり、タイのことが大好きになりました。さらにタイの高校生が現地でたくさんのことを教えてくれたり、アユタヤや寺院を訪れたりしてタイの魅力をたくさん感じました。3月の受け入れではタイの大切な友だちにたくさんのおもてなしをしたいです。

【後半プログラム 報告書】

タイでの研修ではコミュニケーションを積極的に行うことができなかったのが、福岡での受け入れでは少しでもたくさん話すことを意識しました。その上で、伝えたいことを英語で伝えるのが難しく、苦戦することもありましたが、自らコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大事なのだと実感しました。また、この機会を通して、もっとタイの友だちと話したいという思いから英語を勉強するモチベーションになりました。

最終発表では、どうやって聴く人を楽しませるのか、わかりやすく伝えるのかを追求するタイの学生の姿勢が印象的でした。ダンスをしたり、聞く人に質問を投げかけたりすることで、会場が1つになれた気がします。また、発表後の達成感は忘れられないものですし、同じグループの仲間や職員さんから「最高のプレゼンだった、成長したね」と伝えられたことが何より嬉しく、自信になりました。

最初はこのプロジェクトに参加するかどうかかなり迷いましたが、受け入れが終わった今でも写真を見返したり、思い出を振り返ったりするほど人生で一番幸せな瞬間でした。タイの学生からのプレゼントは一生の宝物で、彼らのことは絶対に忘れません。

また、一緒に活動した福岡メンバーからも刺激を受けることも多く、この10名で活動できてよかったです。この事業は本当に貴重な体験でした。最後に、今回事業に携わっていただいた全ての方々に感謝をお伝えします。

本田 百花

精華女子高等学校



【前半プログラム 報告書】

私が今回のタイ研修で一番印象に残ったことは、言語の壁は、私たちが考えるよりもずっと低いということです。

私は、あまり英語を話すことが得意ではないため、ディスカッションでは困難を感じる事が多々ありました。ですが、ジェスチャーや自分の特技を生かしてコミュニケーションを図ることで、皆との距離を縮め、根気強く議論を続けることができました。

また、タイの方々、私の言いたいことを諦めずに理解しようとしてくださり、簡単な英単語で言い換えて伝えてくれたおかげで議論を深めることができました。ディスカッション以外の場面でも、多言語が飛び交う中、共通の話題で皆が笑いあえた瞬間はとても印象的でした。言語の壁は少なからず存在はするけれど、私たちの意思疎通を図りたいという気持ち次第で簡単に乗り越えられるものなのだと気づくことができました。タイの方が日本語を話してくれた時は本当に嬉しかったので、福岡研修の際はタイ語を積極的に使ってみようと思います。

そしてチームのテーマであった「格差」については、日本ではあまり馴染みのない問題であるため、私は今まで注目したことがありませんでした。ですが、バス移動中に窓から見えた高層ビルや豪華な建物の間に広がるスラム街を見て、タイの格差問題の深刻さを目の当たりにしました。これまで日本の問題にのみ目を向けていましたが、タイを訪れて実際に問題を目にすることで、自分のいる環境を飛び出し、様々な角度から物事を見ることの重要性を再認識しました。

最後に、この研修は私にとって一生忘れることができないものとなりました。この機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

【後半プログラム 報告書】

後半のタイ研修を通して、思いやりのあるコミュニケーションを取るためには、お互いに異文化理解を深めることが何よりも大切だと気づきました。なぜなら、タイ生徒の受け入れにあたり、宗教的に配慮が必要な場面があったからです。私はこれまでそのような状況に直面したことがなく、どのように接するべきか戸惑い、言葉選びにも迷うことがありました。しかし、相手の文化や背景を理解しようとする姿勢があれば、たとえそれが異なっても、思いやりを持って向き合うことができると実感しました。

また、タイの方々に楽しんでもらえるように、事前に日本の文化についても自分なりにたくさん調べ、それを使って自国の歴史について英語で一生懸命伝えました。上手く伝わるか不安もありましたが、「面白い」と言ってもらえたときは本当に嬉しく、自分の好きなことを世界に広められたような気がして誇らしかったです。文化の違いを尊重し合いながら、お互いの国について知り、伝え合うことの大切さを学びました。

最後に、私はこの研修で、素晴らしい仲間たちと出会うことができました。皆の高い言語力や幅広い知識に圧倒された一方で、優しく芯のある人間性に、深い尊敬の意を抱きました。いつも、困っている私を助けてくれた仲間や、引率の方々に、心からの感謝を申し上げます。私はこの貴重な経験と学びを、自分の中だけにとどめず、これから周りの人にも伝えていきたいと思っています。

野田 菜々李

明善高等学校



【前半プログラム 報告書】

バンコクで過ごした一週間はとても充実していて、あっという間でした。初日は夜遅くに到着したのにも関わらず、タイの高校生たちは深夜とは思えない明るい雰囲気でお迎えしてくれました。会うのを楽しみにしてくれていた気持ちが伝わってきて、とても嬉しかったのを覚えています。2日目のアユタヤ観光では、ワット・マハタートの木の下に覆われた仏頭やゾウなど、タイならではのものを見ることができました。ウェルカムパーティーで皆でダンスをしたのも良い思い出です。3日目は表敬訪問をさせていただきました。バンコク都知事や議員の方々から社会問題の解決に関する貴重なお話を伺うことができました。フォーマルな場で緊張していましたが、皆さんフレンドリーに接してくださいました。

4・5日目はグループで環境問題について話し合いました。私はまだ英語を流暢に話すことができませんが、チームメイトやメンターが根気強く向き合ってくれたおかげで何とか自分の意見を出すことができました。これからも英語やSDGsの学習に励みたいと思います。また、テーマを整理したり解決策を考えたりする際に付箋を使ったのですが、自分が思いつかないようなアイデアもたくさん出てきて刺激を受けました。最終日は「暁の寺」という意味のワット・アルンに行きました。仏塔の壁面に施された繊細な装飾や本堂前に立つ二体の門など、見どころがいっぱいでした。

本堂ではお祈りの仕方を教えてもらったりお守りと聖水をいただいたりして、神聖な気持ちになりました。嬉しいことに、タイの高校生は私たちが帰ってから次に日本で会うときまでの日数を毎日カウントダウンしてくれています。後半プログラムをさらに充実したものにするため、そしてタイの高校生に日本・福岡を満喫してもらうために準備を頑張っていきたいです。

【後半プログラム 報告書】

私は福岡での研修を通して大きく成長できたと思います。今回のメインである最終発表会では、グループの皆で練習を重ねて最高のプレゼンをすることができました。歌や工作を取り入れる工夫をしたことで、より魅力的なものになったと思います。人前で英語を使って自分の意見を発信することはとても良い経験になりました。その他のプログラムでは、タイの高校生と一緒に日本の魅力を再発見することができました。

太宰府天満宮は何度か訪れたことがありますが、宮司さんのお話を聞いて初めて知ったことがたくさんありました。北九州では環境ミュージアムを訪問し、公害克服の歴史や環境保護への取り組みについて学びました。印象に残ったことは、環境ミュージアムのガイドさんが流暢な英語で説明をしていたことです。とても分かりやすく、タイの高校生も真剣に話を聞いていました。私もガイドさんのように、自分が伝えたいことを海外の相手にも全部伝えられるくらいの英語力をつけていきたいです。また、レストランでの食事やショッピング、自由行動の際に、参加メンバーとの会話を楽しむことができました。私自身も、鍋や焼き肉の食べ方、おすすめのお土産などをタイの高校生に英語で説明することができて良かったです。

このプログラムで学んだこと、そしてバンコクや福岡での人との出会いを大切にして、社会問題の解決や異文化理解に貢献できるようにこれからも努力していきます。

梶原 悠加

福岡雙葉高等学校



【前半プログラム 報告書】

私は約1週間の研修を通して、実際にバンコクを訪問し現地の高校生と交流したことで沢山の刺激を得ました。SDGsについてのグループディスカッションでは、「バンコクのクロントゥーイ地区の子供達に関する教育」をテーマに議論をしました。私は今回の研修で初めてタイを訪れ、且つその地域のことについて何も知らないまま議論を重ねていました。ディスカッションが終わった後に自分なりに調べてみると、クロントゥーイ地区はタイの中でも特別有名な地域だと知りました。日本では「スラム街」と聞いても具体的な場所は想像できませんが、タイで「クロントゥーイ地区」と聞くと知らない人はほぼいないそうです。学校に行かずに働く子供がいるという話を聞きますが、実際にそのような状況に遭遇をしたことがないので、とても衝撃的でした。そして自分の周りの環境がいかに恵まれているかということに気付かされました。これまで自分たちのグループで解決したい問題について下調べをしていない状態でディスカッションを進めていたので3月の時までには十分な情報を集めたいと思います。

また、タイの人々には「マイペンライ」(どういたしまして、気にしないで)や「サバライサバライ」(ゆっくり、心地よく)という考え方があるという風に研修中に通訳の方に教えて頂きました。その言葉の通り、私が関わったタイの方々はとても温厚で優しい人ばかりでした。今回は多くの素敵なおもてなしをして頂いたり、視察の際には沢山歴史について教えて頂いたりしたので、3月にタイの方々が福岡に訪問する時には、福岡の歴史についてや最高のおもてなしをしたいです。

【後半プログラム 報告書】

福岡での受け入れを通し、バンコクに訪問した際より更に成長できたと思いました。

今回は、バンコクでの研修の反省点や感じた事を活かし、自ら積極的に話しかけたり行動したりする様に心がけました。食事の時には、日本の高校生が少ないテーブルに自分から加わるようにし、英語での会話を増やすことを意識しました。学校生活やそれぞれの国のトレンド、お互いの国の常識について話し合い、共通点や相違点を見つけることが出来ました。学校生活の話題では、時間割や授業、部活動、生徒会、さらには定期テストの形式など、普段あまり意識しないような違いに気づくことができました。例えば、タイでは選択式の問題が多く出題される一方で、日本では記述式が中心であることなど、お互いの勉強方法の違いについて話し合いながら驚いたり共感したりする場面もありました。

また、卵かけご飯を作ってふるまったのですが、生卵を食べることに最初は戸惑っていたバンコクの学生が、一口食べて「美味しい！」と感動してくれたのがとても嬉しかったです。食を通じた文化交流は言葉を越えたつながりを感じられる瞬間でもあり、印象に残りました。

さらに、ファイナルプレゼンテーションでは、バンコクの学生のプレゼン力の高さに圧倒されました。エンターテインメント性があり、どんな人でも理解出来るような聞き手に優しく、もっと深く知りたいと思わせる様な話し方でした。終わった後に色々プレゼンについて聞いてみると、学校で頻繁にプレゼンをする機会があるとのことでした。私も発表の機会を見つけ、積極的に行動してまたこの様な機会があれば成長した姿を見せる様に励みたいと思います。

中川 紗良

鞍手高等学校

【前半プログラム 報告書】

今回のタイ・バンコク都との研修で、私は「タイはほほえみの国」であることの本質を知ることができたと思います。1週間の研修を通してタイの方々の優しさ、気遣い、おもてなし溢れる体験を数えきれないほどしました。出会った人みんなが、私に大切なことを気づかせてくれたのです。

研修に参加する前は、「ほほえみの国といわれる理由」「親切で溢れる文化の根底」「議論をさらに深く、視野の広いものにするために必要なこと」を学びたいと考えていました。

そして、SDGsについても多くの学びを得ました。身の周りの課題の解決策を考えていくことについてです。アイデアだけで終わらせるのではなく、より実現可能に、有効にすることが最も重要であることを学びました。私のグループは「農業における環境破壊」に関しての課題を取り上げ、初めは直接的な要因の解決策ばかり考えていました。しかし、直接かかわっているものを改善するのみならず、周囲の人や今あるものを最大限活用して、問題の要因が起これにくくすることもできるのだと気づきました。地域の人々や、学校、団体、組合などと協力していく、より包括的な解決策を見出すことができました。

文化面について、優しさがとても印象に残っています。タイ人に「なぜ、いつも親切な心をもっているのか」と聞くと、「人とかかわるときに大切なのは3つ。1番は尊重すること、そして誠実さ、優しさ」と教えてくれました。意見や疑問に対し、「Yes」、「No」を押し付けるのではなく、肯定的に捉え、尊重することが大切だと感じました。そうすることで、色々な可能性に気づいたり、新たな視点で考えたり、違う考えを得ることができそうです。これから、目標に向うときも「尊重すること」を忘れず、広い視野をもって進んでいきます。



【後半プログラム 報告書】

後半のプログラムでは、タイの学生と心が通じ合い、たくさんの喜びを感じました。言語や文化の壁を越えた絆を築くことができました。研修を通して、コミュニケーション能力、目標設定能力、問題解決力を磨いたり、福岡の魅力を発見し、日本人としての誇りを再認識したりしました。

研修の後半プログラムのために様々な準備を行いました。成果発表準備、歓迎会・送別会、観光パンフレット、観光計画などです。そこで、効率よく役割分担をして、目標を達成するにはコミュニケーションが鍵になることを学びました。成果発表のスライド作成で意見共有が上手くできず、わたし1人に負担がかかる状況でした。さらに、4人のメンバーが急遽3人になる予想外の事態になりました。しかし、そのような場面でこそ必要なことが見えてきたのです。それは「共通認識」です。グループで物事をうまく遂行するには、「報連相」を大切にしつつ、協力の姿勢を引き出さなければいけません。そうすることで、みんな同じベクトルを向き、最大限のパフォーマンスをすることができるからです。

文化面について、まだ知らなかった日本の魅力が多くあることが印象に残っています。タイの学生に、「神社のしめ縄の白い紙なに？」と聞かれましたが、私は見当もつきませんでした。調べると、「紙垂は清浄を表し、穢れのない白で神様を迎い入れるもの」でした。とても神秘的で奥深いと感銘を受けたことが記憶に残っています。同時に、母国をさらに知ろうと努め、素敵な国の国民であることを誇ろうと感じました。そうすることで、自国の文化を尊重できたり、異文化の興味につながったり、世界を広げ深めることができます。

このプログラムは私に大切なことに気づかせてくれ、様々な人と尊重のこころをもって接する機会となりました。これから、出会った人からの学び、研修での経験を将来の目標を実現するエネルギーにしていきたいと思います。

岡 芭菜果

城南高等学校

【前半プログラム 報告書】

私達EグループではSDGsの3、4番の解決に繋がる食品の安全性について議論を進める中でこの問題はタイと日本で受け止め方に大きく違いがあることに気づきました。タイでは手洗いをせずに食堂に向かう人が多いそうで、どうしたら手洗いを促すことができるのかについて尋ねられました。日本では食中毒防止や感染症対策のため日頃から徹底的な手洗いを学校等で指導されており、さらにアニメ『アンパンマン』でバイ菌が体に悪いものであると小さい頃から感覚的に身についていたことに気づきました。幼少期の当たり前がアイデアに変わり、教師に簡単なマニュアルを提供することやアニメを使って食品の安全性について正しい知識を身につけてもらうことなどの解決策を見出すことができました。お互いの国の当たり前が異なることを考慮することは難しかったけれど、それが良いアイデアに繋がることを実感できました。

また、議論がヒートアップすると伝え方が難しい単語や表現が増え、お互いに母国語が多くなって理解するのにとても苦労しましたが、完成した時はとても達成感があり、同時にそれをさらに伝わりやすくプレゼンするチームメイトの姿に感銘を受けました。最終発表では内容ばかり気にするのではなく伝え方に焦点を置いてプレゼンしていきま



す。また、プレゼン以外の交流においてもみんな本当にフレンドリーでタイの歴史について分かりやすく教えてくれたり、素敵なおもてなしをたくさんしてくれました。そんなタイの子たちと明け方近くまで一緒に過ごせるくらい仲良くなれたことが何より嬉しかったしとても楽しい時間になりました。福岡でも交流できることに感謝し、精一杯のおもてなしで返返しをします！

【後半プログラム 報告書】

最終プレゼンテーションを通して、ステージに立って発表することを楽しんでいる新たな自分に出会うことができました。初めは人前に出ることも自分の英語にも自信がなく、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、いつも楽しくプレゼンをするチームメイト達から励ましの言葉を頂いたおかげで不安な気持ちを振り切り、楽しんで本番に臨むことができました。人を楽しませるためにはまず自分が楽しむこと、そして今までの頑張りや自分が1番に信じることを、これからも忘れないでいたいのです。

福岡での受け入れ期間全体を通して、自分の夢の1つであった海外の方々に日本文化を広めることを直接交流する形で達成できました。タイとは違って私たちが先導して福岡案内することで福岡の新たな魅力、自分の日本文化に関する知識不足等の発見が沢山ありました。

例えば、神社とお寺の違い。頭には浮かんでいるけれど上手く説明できなくてとても悔しかったです。しかしこのプログラムに参加する前だったらこんなに悔しいとは思わず、仕方ないで終わっていたと思います。様々な表現を絞り出して質問に答える日本人メンバーや、1つずつ汲み取ろうと沢山質問してくれるバンコクメンバー。このように志高く、優しさ溢れる仲間たちと多くの時間を共にしたことで、自分の目標が自然と上がり、悔しさがモチベーションに変わりました。大好きなメンバー全員の更なる活躍を楽しみに私も夢に向かって頑張ります。

令和6年度 タイ王国バンコク都との高校生交流事業 募集要項

1 目的

海外との交流に意欲的な高校生に、英語でのディスカッションや海外渡航の機会を与えることにより、国際感覚を持ち、将来的に英語でコミュニケーションができる人財を育成する。

2 主催

公益財団法人福岡県国際交流センター

(福岡県からの委託により、(公財)福岡県国際交流センターが実施)

3 プログラム内容

福岡県とタイ王国バンコク都を相互に訪問し、ワンヘルスやSDGsをテーマに高校生に身近な社会課題について、チームごとに英語でグループディスカッションを行い、自分たちが取り組めることや課題解決策を発表する。

(1)事前研修(場所 福岡市内、オンライン)

ア 事前研修 1回目

日程 令和6年11月17日(日)

内容 福岡県とバンコク都の概要、ワンヘルスやSDGsに関する講義とグループワーク

イ 事前研修 2回目

日程 令和6年11月30日(土)

内容 バンコク都高校生との顔合わせ、ワンヘルスやSDGsについての講義(オンライン)

ウ 事前研修 3回目

日程 令和6年12月7日(土)

内容 テーマ決め、グループディスカッション(オンライン)

(2)海外研修(派遣国 タイ王国バンコク都)

ア 日程 令和6年12月21日(土)～26日(木)

イ 内容 福岡県の高校生10名とバンコク都の高校生10名が一堂に会し、ワンヘルスやSDGsをテーマに身近な社会課題について、専門家による講義やフィールドワークなどを通じて英語でディスカッションを行い、課題解決策等を考え発表する。その他、バンコク都庁表敬訪問等。

(3)国内研修(場所 福岡市内)

ア 日程 令和7年3月20日(木)～25日(火)

イ 内容 バンコク都の高校生とともに研修の成果発表や日本文化体験などを通じて交流する。その他、福岡県庁表敬訪問等。
※報告書冊子を作成しますので、研修全日程終了後、報告書を提出して頂きます。

4 募集人員

10名

5 応募資格

次のすべてに該当する者とします。

- (1)高等学校もしくはそれに準ずる学校に在籍している18歳以下の者(福岡県内に在住もしくは福岡県内の高等学校等に在籍)。
- (2)ワンヘルス※やSDGsに強い関心を持ち、協調性に富み、団体生活に適応でき、心身ともに健康で、タイの文化や生活、国際交流に関心のある者。
- (3)一定の英文読解力を有し、英語によるコミュニケーションが可能であること。
- (4)国内研修及び海外研修すべてのプログラムに参加できること。
- (5)当事業終了後、以下に例示する福岡県又は(公財)福岡県国際交流センターが実施する事業等への協力が見込めると認められること。
・事業の周知や広報への協力
・HPや報告書冊子への掲載
- (6)参加にあたって、保護者の同意が得られる者。
※ワンヘルスとは:「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方です。
<https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp>

6 応募方法

以下、どちらかの方法で申請してください。

①電子申請

下記のURL(Google form)より参加者申請書を送信してください。

<https://forms.gle/mfkkZFDg4VEobwAt5>

②電子メールまたは郵送による申請

下記の書類を、申込先へ電子メールにて送信するか、封筒に朱書きで「申請書在中」と記載の上、簡易書留にて郵送してください。

- ＜提出書類＞ (1)様式1 参加申請書
(2)様式2 作文

7 募集締切

令和6年9月20日(金)17時まで

※上項の応募方法、いずれも期限「必着」とする。

8 選考・決定

(1)1次選考(書類選考)

提出書類に基づいて書類選考を行います。

結果は、令和6年9月30日(月)までに本人に電子メールで通知します。

(2)2次選考(面接)

1次選考の合格者に対し、面接を行います。

面接予定日 令和6年10月6日(日)

(3)決定

令和6年10月下旬に本人に電子メールで通知します。

9 経費、損害等の負担

(1)参加者負担金 100,000円

※参加者負担金に含まれるものは、海外研修に係る費用のうち、渡航費(往復航空券等)、海外旅行保険、宿泊費、食費、車両借上げ料
※為替や燃料サーチャージ等状況により負担金が増額になる可能性があります。

(2)参加者負担金のほか、次の費用(一例)は参加者の自己負担となります。

- ①国内研修にかかる交通費
- ②パスポート取得費用
- ③海外旅行保険料(当財団で加入する保険を上回る補償を希望する場合)
- ④海外研修時の集合・解散場所までの交通費
- ⑤個人的に必要な経費(電話代等通信費・お土産代など)
- ⑥海外研修中に新型コロナウイルス等により自主隔離等が必要になった場合の宿泊費等(海外旅行保険で補償される場合を除く)
- ⑦自然災害や悪天候等航空会社や主催者の手配に起因しない事由によりプログラム内容が変更になる場合の追加費用(航空機の欠航・遅延、宿泊費等)

(3)自己都合によるキャンセル

参加者決定後は、原則として参加を辞退することはできません。

参加者が自己都合により参加を辞退した場合において生じるキャンセル料等については、負担金納入の有無にかかわらず参加者が全額を負担し、主催者は負担しないものとします。

(4)研修中の事故等

研修中の災害、病気、事故、個人の不注意等によって生じる参加者の損害等については、主催者は責任を負いません。なお、参加者は、主催者の負担により海外旅行保険に加入します。

10 参加者資格の取消し

参加者として不適切と認められる者(提出書類に偽りがあったとき、事前研修の無断欠席、事務局からの連絡に誠実に対応しない等)については、参加者資格を取り消します。なお、主催者は、すでに主催者が負担した経費の一部又は全部について、資格を取り消された者から返還させることができるものとします。

11 プログラムの変更、中止

(1)プログラムの内容や日程は変更となる場合があります。

(2)自然災害や新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大、その他不測の事態により、国内・海外研修の安全かつ円滑な実施が困難となった場合、又は困難となる可能性が大きい場合、プログラムは中止もしくは内容の変更、一部オンラインでの実施等に対応するものとします。
【海外研修出発前に中止する場合】納入済みの負担金は全額返金します。

【海外研修中に中断する場合】負担金は返金しません。行程変更等に伴い、追加費用を負担していただく場合があります。

12 問合せ・申込み先

公益財団法人福岡県国際交流センター 企画交流部 担当 中嶋、三井
住所 〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1アクロス福岡西館8階
電話 092-725-9204 FAX 092-725-9205

電子メール exchange@fief.or.jp

時間 平日 午前8時30分～午後5時45分



タイ王国バンコク都との高校生交流事業 参加者募集

福岡県とタイ王国バンコク都を相互に訪問し、ワンヘルスやSDGsをテーマに、高校生に身近な社会課題について、専門家による講義やフィールドワークなどを通じてチームごとに英語でディスカッションを行い、自分たちが取り組めることや課題解決策を発表するプログラムです。



■ 実施場所： **バンコク都・福岡県**

■ 募集人数： **10名**

■ 参加費用： **10万円**

※参加者負担金の他、パスポート取得費用・事前研修等に係る交通費などは参加者の自己負担となります。募集要項を必ずご確認ください

■ 応募締切： **令和6年9月20日(金)17時まで**

- 対象者： (1) 高等学校もしくはそれに準ずる学校に在籍している18歳以下の者
(福岡県内に在住もしくは福岡県内の高等学校等に在籍)
(2) 一定の英文読解力を有し、英語によるコミュニケーションが可能であること
(3) 国内研修及び海外研修全てのプログラムに参加できること等

事前研修

日程：11月17日、30日

12月7日

場所：福岡市内、オンライン



海外研修

日程：12月21日～26日

場所：バンコク都



国内研修

日程：令和7年3月20日～25日

場所：福岡県

選考日程

9月20日(金)応募締切 ※17時まで

9月下旬 1次選考(書類選考)結果通知

10月6日(日)2次選考(面接)

10月下旬 参加者決定通知

※本人には電子メールで通知します

募集要項・応募方法

右上のQRコードより専用サイトにアクセスしてください



《問い合わせ先》

公益財団法人 福岡県国際交流センター 企画交流部

受付時間 8時30分～17時45分(土日祝日を除く)

Tel: 092-725-9204 Fax: 092-725-9205

E-mail: exchange@fief.or.jp



編集 福岡県企画・地域振興部国際局地域課
(公財)福岡県国際交流センター
発行 2025年7月